

2007年8月28日

都城市長 長峯 誠 殿

都城市民会館の再生利用を考える会
代表 黒木 文雄
南九州の文化と建築を考える会
平川靖三、中岡盛久、室田光久

都城市民会館再生 活用要望書

解体の方針が出ています都城市民会館について、その高い建築学的価値、インターナショナルな評価により、今後さらに全国へ向けての発信が可能な文化観光資源として、都城の財産として、後世に残すべく再生活用の方向でのご検討をいただきますよう要望いたします。

昨年12月に市民4,000人に向けて発送されました「市民アンケート」の結果は82.9%が解体を承認するものでありました。しかしながら、その後すぐに建築の専門家団体から次々に「都城市民会館の保存要望書」が市に提出され、今年7月には、近代建築の保存・記録・調査などの活動をする唯一の国際組織 DOCOMOMOjapan から2006年度選定建築物10選入りが正式発表になるなど、都城市民会館の有する高い建築学的価値が広く一般市民にも認知されるようになったと思われまます。

都城市民会館は都城だけでなく、県・九州・日本の重要なモダニズム建築遺産であるということが明白になり、もはやその存続については、都城だけの問題に留まりません。

今、日本各地で、その地域特有の古い建物を改修・復元し、観光や商業に活かす動きが盛んになってきています。また、まだ使える建物を壊さずに、改修して使い続けることは、逼迫する地方財政や地球規模の環境問題の観点から考えても大変有益なことではないでしょうか。都城のシンボルとして市民に愛され親しまれてきた都城市民会館を市民の財産として未来へ贈る素晴らしい遺産として活用していくことは、現在、市で「都城市都市計画マスタープランの策定」が進められていますが、これからの魅力ある都城のまちづくりのためにも必要なことと考えます。この度我々も強く希望していた島津邸の買い上げ、観光協会での運用には大喝采をおくりたいと思いますが、同時に貴重な財産である市民会館も存続させれば、市観光の総合的運用に大きな展開が計られると信じます。市民会館のこれからの利用については、民間団体・文化団体の交流拠点、ネットワークの構築で生れる、新しい地域文化発進の場として、私達もその活用プログラムに参加したいと希望します。

これまで永い間、北諸文化の中心であった市民会館を新市発展のために再活用することへの大英断を強く期待をもって御願ひ致します。

※この要望書は、市内の企業、団体、個人、市民、又は県内外の建築・専門家などの賛同書（署名・捺印）約40枚を添付しました。その公衆の目に触れられるように、今回は省庁各課に提出いたします。